

IN THE UNITED STATES PATENT AND TRADEMARK OFFICE

Applicant:	TSUCHIZAKI, Akihiro)	
)	
Serial No.:	To Be Assigned)	Group Art Unit: To Be Assigned
)	
Filed:	Concurrent Herewith)	Examiner: To Be Assigned
)	
For:	License Plate Holding Bracket and the)	
	Holding Structure Thereof)	

CLAIM FOR FOREIGN PRIORITY

Commissioner for Patents
P.O. Box 1450
Alexandria, VA 22313-1450

Sir:

Relating to the above-identified United States patent application, and under the provisions of Section 119 of 35 U.S.C., Applicant hereby claims the benefit of the following Japanese applications filed on September 17, 2002:

Application No. 2002-270020;
Application No. 2002-270040;
Application No. 2002-270044;
Application No. 2002-270109; and
Application No. 2002-270116.

In support of Applicant's claim for priority, certified copies of said Japanese applications are attached hereto.

Respectfully submitted,

SMITH, GAMBRELL & RUSSELL, LLP


By: Robert G. Weilacher, Reg. No. 20,531

Dated: September 15, 2003
Suite 3100, Promenade II
1230 Peachtree Street, N.E.
Atlanta, Georgia 30309-3592
Ph: (404) 815-3593
Fax: (404) 685-6893

日 本 国 特 許 庁
JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office

出 願 年 月 日
Date of Application:

2002年 9月17日

出 願 番 号
Application Number:

特願2002-270020

[ST.10/C]:

[JP2002-270020]

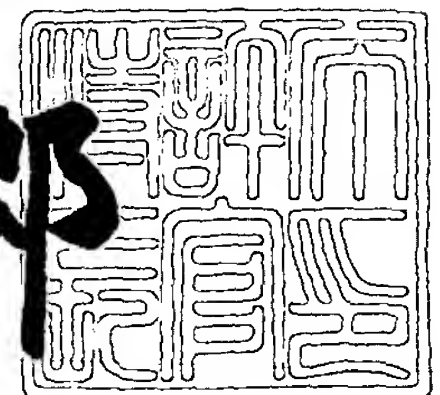
出 願 人
Applicant(s):

富士重工業株式会社

2003年 3月 4日

特 許 庁 長 官
Commissioner,
Japan Patent Office

太田信一郎



出証番号 出証特2003-3013009

【書類名】 特許願

【整理番号】 GG020804

【提出日】 平成14年 9月17日

【あて先】 特許庁長官 殿

【国際特許分類】 B60R 13/00

【発明者】

【住所又は居所】 東京都新宿区西新宿一丁目 7 番 2 号 富士重工業株式会
社内

【氏名】 土崎 彰洋

【特許出願人】

【識別番号】 000005348

【氏名又は名称】 富士重工業株式会社

【代理人】

【識別番号】 100090033

【弁理士】

【氏名又は名称】 荒船 博司

【選任した代理人】

【識別番号】 100093045

【弁理士】

【氏名又は名称】 荒船 良男

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 027188

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 ライセンスプレート保持ブラケット及び車両のライセンスプレート保持構造

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

車両の荷台の後端に回動自在に設けられ、略垂直状態で前記荷台を閉状態とし、略水平状態で前記荷台を開状態とするリヤゲートに取り付けられるライセンスプレート保持ブラケットであって、

前記リヤゲートに固定されるゲート側固定部材と、

ライセンスプレートを保持し、前記ゲート側固定部材に回動自在に接続され、前記リヤゲートに対して前記ライセンスプレートを略平行な状態と、略起立した状態と、に移動可能なプレート保持部材と、を備え、

前記プレート保持部材に、前記リヤゲートが略水平状態のときに前記リヤゲートに対して前記ライセンスプレートとが略起立した状態となると車両のリヤバンパと当接するストッパ部材を設けたことを特徴とするライセンスプレート保持ブラケット。

【請求項 2】

前記ストッパ部材は、前記リヤゲートと前記ライセンスプレートとが略平行な状態となると前記リヤゲートに当接することを特徴とする請求項 1 記載のライセンスプレート保持ブラケット。

【請求項 3】

前記ストッパ部材は、前記リヤゲートと前記ライセンスプレートとが略平行な状態となると前記ゲート側固定部材に当接することを特徴とする請求項 1 記載のライセンスプレート保持ブラケット。

【請求項 4】

前記ストッパ部材は、弾性体であることを特徴とする請求項 1 から 3 のいずれか一項に記載のライセンスプレート保持ブラケット。

【請求項 5】

前記ゲート側固定部材及び前記プレート保持部材は、それぞれ板状に形成され

前記プレート保持部材の所定方向の一端側が、前記ゲート側固定部材に回動自在に接続されることを特徴とする請求項 1 から 4 のいずれか一項に記載のライセンスプレート保持ブラケット。

【請求項 6】

車両の荷台の後端に設けられ、略垂直状態で前記荷台を閉状態とし、略水平状態で前記荷台を開状態とするリヤゲートと、

前記リヤゲートに固定されるゲート側固定部材と、

ライセンスプレートを保持し、前記ゲート側固定部材に回動自在に接続され、前記リヤゲートに対して前記ライセンスプレートを略平行な状態と、略起立した状態と、に移動可能なプレート保持部材と、

前記プレート保持部材に設けられ、前記リヤゲートが略水平状態のときに前記リヤゲートに対して前記ライセンスプレートとが略起立した状態となると車両のリヤバンパと当接するストッパ部材と、を備え、

前記リヤゲートに、前記ライセンスプレート保持ブラケットに対して凹に形成され、前記ストッパ部材を受容する受容凹部を形成したことを特徴とする車両のライセンスプレート保持構造。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、荷台の後端にリヤゲートを有する車両に取り付けられるライセンスプレート保持ブラケット及びこれを備えた車両のライセンスプレート保持構造に関するものである。

【0002】

【従来の技術】

従来、荷台の後端にリヤゲートを有する車両には、通常、荷台下方のリヤバンパにライセンスプレートが取り付けられる。この種の車両のライセンスプレート保持構造としては、リヤバンパにライセンスプレートの取付面を形成し、ボルト及びナット等により、リヤバンパに直接的にライセンスプレートを取り付ける構

造が一般的である（例えば、特許文献 1 参照。）。

【0 0 0 3】

【特許文献 1】

特開平 1 0 - 2 3 0 7 9 9 号公報（第 4 頁、第 1 図）

【0 0 0 4】

【発明が解決しようとする課題】

ところで、ライセンスプレートをリヤゲートに取り付けることができれば、車両の造形上の自由度が飛躍的に向上する。しかしながら、前記ライセンスプレート保持構造のように、ライセンスプレートを直接的にリヤゲートに取り付けると、リヤゲートが略水平状態となった際に、ライセンスプレートを後方から視認することができないという問題点がある（例えば、特許文献 1 参照。）。

【0 0 0 5】

ここで、この問題点を解消するため、ライセンスプレートをリヤゲートに対して回動自在に取り付け、リヤゲートが略水平状態のときに、ライセンスプレートをリヤゲートに対して回動させ、ライセンスプレートを後方から視認可能な状態とすることが考えられる。ところがこの場合、リヤゲートが略水平状態、略垂直状態のいずれであっても、ライセンスプレートを的確に支持することは困難であり、ライセンスプレートの振動等を抑制することができないという問題点が生ずる。

【0 0 0 6】

本発明は、前記事情に鑑みてなされたものであり、その目的とするところは、リヤゲートが略垂直状態であっても、略水平状態であっても、ライセンスプレートを車両後方から視認することができ、且つ、ライセンスプレートを的確に支持することができるように、ライセンスプレートをリヤゲートに取り付けることのできるライセンスプレート保持ブラケット及びこれを備えた車両のライセンスプレート保持構造を提供することにある。

【0 0 0 7】

【課題を解決するための手段】

前記目的を達成するため、請求項 1 記載の発明では、車両の荷台の後端に回動

自在に設けられ、略垂直状態で前記荷台を閉状態とし、略水平状態で前記荷台を開状態とするリヤゲートに取り付けられるライセンスプレート保持ブラケットであって、前記リヤゲートに固定されるゲート側固定部材と、ライセンスプレートを保持し、前記ゲート側固定部材に回動自在に接続され、前記リヤゲートに対して前記ライセンスプレートを略平行な状態と、略起立した状態と、に移動可能なプレート保持部材と、を備え、前記プレート保持部材に、前記リヤゲートが略水平状態のときに前記リヤゲートに対して前記ライセンスプレートとが略起立した状態となると車両のリヤバンパと当接するストッパ部材を設けたことを特徴とする。

【 0 0 0 8 】

請求項 1 記載の発明によれば、リヤゲートが略垂直状態のときは、ライセンスプレートがリヤゲートと略平行な状態となるように、プレート保持部材を位置させる。これにより、車両の後方からライセンスプレートが視認可能な状態となる。

また、リヤゲートが略水平状態のときは、ライセンスプレートがリヤゲートに対して略起立した状態となるように、プレート保持部材を位置させる。すなわち、略水平のリヤゲートから、ライセンスプレートが下方へ突出するので、車両の後方からライセンスプレートが視認可能な状態となる。このとき、プレート保持部材のストッパ部材は、リヤバンパと当接する。

【 0 0 0 9 】

従って、リヤゲートが略垂直状態であっても、略水平状態であっても、ライセンスプレートを車両後方から視認することができる。すなわち、荷台を開状態のままでも、ライセンスプレートが後方より視認される状態であるので、支障なく車両を走行させることができ、実用に際して極めて有利である。

また、リヤゲートが略水平な状態で、且つ、リヤゲートに対してライセンスプレートが略起立した状態では、プレート保持部材のストッパ部材がリヤバンパと当接することにより、プレート保持部材及びライセンスプレートがリヤバンパに的確に支持され、ライセンスプレートの振動等が抑制される。すなわち、リヤゲートが略水平状態のときに、ライセンスプレートの振動等を抑制することができ

、ブラケットの各部の信頼耐久性を確保するとともに、びびり音等を抑制することができる。

さらに、リヤゲートにライセンスプレートを取り付けることができるので、車両の造形上の自由度が飛躍的に向上し、車両の商品性を向上することができる。

【 0 0 1 0 】

請求項 2 記載の発明では、請求項 1 記載のライセンスプレート保持ブラケットにおいて、前記ストッパ部材は、前記リヤゲートと前記ライセンスプレートとが略平行な状態となると前記リヤゲートに当接することを特徴とする。

【 0 0 1 1 】

また、請求項 3 記載の発明では、請求項 1 記載のライセンスプレート保持ブラケットにおいて、前記ストッパ部材は、前記リヤゲートと前記ライセンスプレートとが略平行な状態となると前記ゲート側固定部材に当接することを特徴とする。

【 0 0 1 2 】

請求項 2 及び 3 に記載の発明によれば、請求項 1 の作用に加え、リヤゲートとライセンスプレートとが略平行な状態で、プレート保持部材のストッパ部材は、リヤゲート又はゲート側固定部材と当接する。

【 0 0 1 3 】

従って、リヤゲートとライセンスプレートとが略平行な状態では、プレート保持部材のストッパ部材がリヤゲート又はゲート側固定部材と当接することにより、プレート保持部材及びライセンスプレートがリヤゲートに的確に支持され、ライセンスプレートの振動等が抑制される。すなわち、リヤゲートが略垂直状態、略水平状態のいずれであっても、ライセンスプレートの振動等を抑制することができ、ブラケットの各部の信頼耐久性を確保するとともに、びびり音等を抑制することができる。

さらに、ストッパ部材が、リヤゲートが略垂直状態のときはリヤゲート又はゲート側固定部材と、リヤゲートが略水平状態のときはリヤバンパと当接するので、リヤゲートの開閉状態に対応するように別個にストッパ部材を設ける必要がなく、部品点数を削減して製造コストを低減することができる。

【 0 0 1 4 】

請求項 4 記載の発明では、請求項 1 から 3 のいずれか一項に記載のライセンスプレート保持ブラケットにおいて、前記ストッパ部材は、弾性体であることを特徴とする。

【 0 0 1 5 】

請求項 4 記載の発明によれば、請求項 1 から 3 のいずれか一項の作用に加え、ストッパ部材が弾性体であるので、走行時の車両の振動によるリヤゲート又はリヤバンパとプレート保持部材との相対的な移動は、ストッパ部材の伸縮により吸収される。すなわち、車両の走行時に、プレート保持部材を的確にリヤゲート又はリヤバンパに追従させることができる。

【 0 0 1 6 】

従って、プレート保持部材及びライセンスプレートが、車両走行時にリヤゲート又はリヤバンパに対してばたつくことはなく、ブラケットの各部の信頼耐久性をさらに向上することができるし、さらに効果的にびびり音等を抑制することができる。

【 0 0 1 7 】

請求項 5 記載の発明では、請求項 1 から 4 のいずれか一項に記載のライセンスプレート保持ブラケットにおいて、前記ゲート側固定部材及び前記プレート保持部材は、それぞれ板状に形成され、前記プレート保持部材の所定方向の一端側が、前記ゲート側固定部材に回動自在に接続されることを特徴とする。

【 0 0 1 8 】

請求項 5 記載の発明によれば、請求項 1 から 4 のいずれか一項の作用に加え、プレート保持部材の所定方向の他端側をゲート側固定部材と近接するように、プレート保持部材をゲート側固定部材に対して回動させ、ゲート側固定部材とプレート保持部材とが略平行な状態となるよう折り畳むと、リヤゲートとライセンスプレートとが略平行となる。

また、プレート保持部材の所定方向の他端側をゲート側固定部材から離隔するように、プレート保持部材をゲート側固定部材に対して回動させ、プレート保持部材をリヤゲート側から突出させると、リヤゲートに対してライセンスプレート

が略起立した状態となる。

【 0 0 1 9 】

従って、リヤゲートを略垂直状態で使用する場合は、ゲート側固定部材とプレート保持部材とが折り畳まれるので、ブラケット全体を薄型とすることができ、レイアウト上有利である。また、リヤゲートが略水平状態のときに、ライセンスプレートをリヤゲートから下方へ比較的大きく突出させることができ、ライセンスプレートの視認性を良好なものとすることができる。

【 0 0 2 0 】

請求項 6 記載の発明では、車両のライセンスプレート保持構造において、車両の荷台の後端に設けられ、略垂直状態で前記荷台を閉状態とし、略水平状態で前記荷台を開状態とするリヤゲートと、前記リヤゲートに固定されるゲート側固定部材と、ライセンスプレートを保持し、前記ゲート側固定部材に回動自在に接続され、前記リヤゲートに対して前記ライセンスプレートを略平行な状態と、略起立した状態と、に移動可能なプレート保持部材と、前記プレート保持部材に設けられ、前記リヤゲートが略水平状態のときに前記リヤゲートに対して前記ライセンスプレートとが略起立した状態となると車両のリヤバンパと当接するストッパ部材と、を備え、前記リヤゲートに、前記ライセンスプレート保持ブラケットに対して凹に形成され、前記ストッパ部材を受容する受容凹部を形成したことを特徴とする。

【 0 0 2 1 】

請求項 6 記載の発明によれば、リヤゲートとライセンスプレートとが略平行な状態で、ストッパ部材はリヤゲートの受容凹部内に受容される。これにより、ストッパ部材の寸法を考慮することなく、プレート保持部材がリヤゲート側に近接する位置に設定することができる。

【 0 0 2 2 】

従って、リヤゲートに近接させてライセンスプレート保持ブラケットを設置することができ、リヤゲートからブラケット及びライセンスプレートが大きく突出することはなく、車両の見栄えを損なうことがなく、実用に際して極めて有利である。

【 0 0 2 3 】

【発明の実施の形態】

図 1 から図 8 は本発明の一実施形態を示すもので、図 1 はリヤゲートが略垂直状態の車両の背面図、図 2 はゲート側固定部材とプレート保持部材とが略平行な状態のライセンスプレート保持ブラケットの背面図、図 3 はゲート側固定部材に対してプレート保持部材が略起立した状態のライセンスプレート保持ブラケットの正面図、図 4 はゲート側固定部材に対してプレート保持部材が略起立した状態のライセンスプレート保持ブラケットの側面図、図 5 はリヤゲートが略垂直状態でライセンスプレートがリヤゲートに対して略起立した状態の車両の外観斜視図、図 6 はリヤゲートが略水平状態でライセンスプレートがリヤゲートに対して略起立した状態の車両の外観斜視図、図 7 はリヤゲートが略垂直状態でライセンスプレートがリヤゲートに対して略平行の状態の車両の一部側面説明図、図 8 はリヤゲートが略水平状態でライセンスプレートがリヤゲートに対して略起立した状態の車両の一部側面説明図である。

【 0 0 2 4 】

図 1 に示すように、車両の荷台の後端には、荷台を開閉するリヤゲート 1 が設けられる。このリヤゲート 1 は、下端が荷台後端に回動自在に設けられ、略垂直状態で荷台を閉状態とし、略水平状態で荷台を開状態とする。

【 0 0 2 5 】

リヤゲート 1 には、ライセンスプレート LP を回動自在に保持するライセンスプレート保持ブラケット 2 が固定される。このライセンスプレート保持ブラケット 2 は、図 3 に示すように、リヤゲート 1 に固定されるゲート側固定部材 3 と、ライセンスプレート LP を保持し、ゲート側固定部材 3 に回動自在に接続されるプレート保持部材 4 とを有している。図 4 に示すように、ゲート側固定部材 3 とプレート保持部材 4 とは、回動機構 5 により接続され、図 2 及び図 3 に示すロック機構 6 によりロック可能となっている。すなわち、リヤゲート 1 が荷台に対して回動自在であるとともに、プレート保持部材 4 はゲート側固定部材 3（リヤゲート 1）に対して回動自在であり、図 5 及び図 6 に示すように、リヤゲート 1 の回動位置に応じて、プレート保持部材 4 を回動させることができるようになっている。

る。以下、リヤゲート 1 が略垂直状態で、ライセンスプレート LP がリヤゲート 1 に対して略平行の状態のときの前後、上下方向を基準として、ライセンスプレート保持ブラケット 2 について説明する。

【 0 0 2 6 】

図 7 及び図 8 に示すように、ゲート側固定部材 3 は板状に形成されリヤゲート 1 に沿って固定される。ゲート側固定部材 3 は、左右方向に延び、左右端部側に回動機構 5 が接続される。本実施形態においては、この回動機構 5 は、ゲート側固定部材 3 の上側に接続される。また、図 3 に示すように、ゲート側固定部材 3 の左右端部側には、ロック機構 6 のストライカ部 6 a が取り付けられる。尚、本実施形態においては、ゲート側固定部材 3 は、左右中央下部が切り欠かれた形状となっている。

【 0 0 2 7 】

図 2 に示すように、プレート保持部材 4 は、略四角形の板状に形成され、ライセンスプレート LP を保持する。本実施形態においては、プレート保持部材 4 の左右端部側の上側に、回動機構 5 が接続される。また、本実施形態においては、プレート保持部材 4 には、ライセンスプレート LP を保持するためのウエルディングボルト 7 が設けられる。また、プレート保持部材 4 の後面左右端部側で樹脂製のカバー 1 1 の裏側には、ライセンスプレート LP を照射するランプ 8 が設けられる。また、プレート保持部材 4 には、その下端及び前面下部を被覆する樹脂部材 9 が係合している。また、プレート保持部材 4 の前面には、左右一対のストッパ部材 1 0 が設けられる。また、プレート保持部材 4 の前面には、ロック機構 6 のラッチ部 6 b が設けられる。さらに、プレート保持部材 4 の後面には、ラッチ部 6 b に接続される操作ボタン 6 c が設けられ、この操作ボタン 6 c の周囲は樹脂製のカバー 1 1 により覆われる。

【 0 0 2 8 】

図 3 に示すように、各ストッパ部材 1 0 は、プレート保持部材 4 の前面に突出するよう設けられる。本実施形態においては、各ストッパ部材 1 0 は、前方に向かって窄む略円筒状に形成されたゴム材からなる。ここで、ゲート側固定部材 3 には、プレート保持部材 4 がリヤゲート 1 側に回動した際に、各ストッパ部材 1

0 が挿通されるストッパ挿通孔 3 a が形成される。

【 0 0 2 9 】

さらに、リヤゲート 1 には、図 7 及び図 8 に示すように、プレート保持部材 4 がリヤゲート 1 側に回動した際に、ストッパ部材 1 0 を受容する受容凹部 1 a が形成される。この受容凹部 1 a は、ブラケット 2 に対して凹に形成されており、ストッパ部材 1 0 が受容凹部 1 a と当接するようになっている。

【 0 0 3 0 】

ここで回動機構 5 について説明する。本実施形態においては、図 4 に示すように、回動機構 5 は、一端側がゲート側固定部材 3 の左右上端側に回動自在に接続されるアーム部材 5 a と、アーム部材 5 a の他端側のピン部材 5 b を挿通しプレート保持部材 4 の左右上端に形成される溝部 5 c とを有している。尚、本実施形態においては、図 3 に示すように、回動機構 5 は、ゲート側固定部材 3 からプレート保持部材 4 側に突出する軸支部 5 d が形成された軸支部 5 d を有する。この軸支部 5 d は、ゲート側固定部材 3 の上端側と、プレート保持部材 4 の上端側とを回動自在に接続する。この軸支部 5 d により、ゲート側固定部材 3 からプレート保持部材 4 側へ離隔した位置を中心として、プレート保持部材 4 はゲート側固定部材 3 に対して回動するようになっている。すなわち、溝部 5 c 内をピン部材 5 b が移動することにより、アーム部材 5 a が回動するとともに、プレート保持部材 4 が回動するようになっている。

【 0 0 3 1 】

すなわち、プレート保持部材 4 は、回動機構 5 を介してゲート側固定部材 3 に回動自在に接続され、リヤゲート 1 に対してライセンスプレート L P を略平行な状態と、略起立した状態と、に移動可能となっている。本実施形態においては、プレート保持部材 4 の所定方向の一端側がゲート側固定部材 3 に接続される。この所定方向及び一端側とは、リヤゲート 1 が略垂直状態で、ライセンスプレート L P がリヤゲート 1 に対して略平行の状態のときの上下方向及び上端側である。

【 0 0 3 2 】

以上のように構成されたライセンスプレート保持ブラケット 2 においては、図 1 及び図 7 に示すように、リヤゲート 1 が略垂直状態のときは、ライセンスプレ

ートLPがリヤゲート1と略平行な状態となるように、プレート保持部材4を位置させる。本実施形態においては、プレート保持部材4の所定方向の他端側をゲート側固定部材3と近接するように、プレート保持部材4をゲート側固定部材3に対して回動させ、ゲート側固定部材3とプレート保持部材4とが略平行な状態となるよう折り畳むと、リヤゲート1とライセンスプレートLPとが略平行となる。これにより、車両の後方からライセンスプレートLPが視認可能な状態となる。このとき、プレート保持部材4の各ストッパ部材10は、リヤゲート1と当接する。

【0033】

本実施形態においては、図7に示すように、リヤゲート1と、プレート保持部材4の各ストッパ部材10とが当接すると、各ストッパ部材10はリヤゲート1の受容凹部1a内に受容される。これにより、各ストッパ部材10の寸法を考慮することなく、プレート保持部材4がリヤゲート1側に近接する位置に設定することができる。

【0034】

また、リヤゲート1が略水平状態のときは、図6及び図8に示すように、ライセンスプレートLPがリヤゲート1に対して略起立した状態となるように、プレート保持部材4を位置させる。本実施形態においては、図5に示すように、プレート保持部材4の所定方向の他端側をゲート側固定部材3から離隔するように、プレート保持部材4をゲート側固定部材3に対して回動させ、プレート保持部材4をリヤゲート1側から突出させると、リヤゲート1に対してライセンスプレートLPが略起立した状態となる。すなわち、略水平のリヤゲート1から、ライセンスプレートLPが下方へ突出するので、車両の後方からライセンスプレートLPが視認可能な状態となる。このとき、プレート保持部材4の各ストッパ部材10は、リヤバンパRBと当接する。

【0035】

また、各ストッパ部材10が弾性体であるので、走行時の車両の振動によるリヤゲート1又はリヤバンパRBとプレート保持部材4との相対的な移動は、各ストッパ部材10の伸縮により吸収される。すなわち、車両の走行時に、プレート

保持部材 4 を的確にリヤゲート 1 又はリヤバンパ R B に追従させることができる。

【 0 0 3 6 】

各ストッパ部材 1 0 がゴム材であるので、プレート保持部材 4 をリヤゲート 1 に対して回動させた際や、車両の走行時等に、各ストッパ部材 1 0 からリヤゲート 1 又はリヤバンパ R B に負荷が加わっても、リヤゲート 1 又はリヤバンパ R B における各ストッパ部材 1 0 との当接部分が、各ストッパ部材 1 0 により摩耗することはない。

【 0 0 3 7 】

このように、本実施形態のライセンスプレート保持ブラケット 2 によれば、リヤゲート 1 が略垂直状態であっても、略水平状態であっても、ライセンスプレート L P を車両後方から視認することができる。すなわち、荷台を開状態のままでも、ライセンスプレート L P が後方より視認される状態であるので、支障なく車両を走行させることができ、実用に際して極めて有利である。

【 0 0 3 8 】

また、リヤゲート 1 とライセンスプレート L P とが略平行な状態では、プレート保持部材 4 の各ストッパ部材 1 0 がリヤゲート 1 と当接することにより、プレート保持部材 4 及びライセンスプレート L P がリヤゲート 1 に的確に支持され、ライセンスプレート L P の振動等が抑制される。また、リヤゲート 1 が略水平な状態で、且つ、リヤゲート 1 に対してライセンスプレート L P が略起立した状態では、プレート保持部材 4 の各ストッパ部材 1 0 がリヤバンパ R B と当接することにより、プレート保持部材 4 及びライセンスプレート L P がリヤバンパに的確に支持され、ライセンスプレート L P の振動等が抑制される。すなわち、リヤゲート 1 が略垂直状態、略水平状態のいずれであっても、ライセンスプレート L P の振動等を抑制することができ、ブラケット 2 の各部の信頼耐久性を確保するとともに、びびり音を抑制することができる。

【 0 0 3 9 】

さらに、各ストッパ部材 1 0 が、リヤゲート 1 が略垂直状態のときはリヤゲート 1 と、リヤゲート 1 が略水平状態のときはリヤバンパ R B と当接するので、リ

ヤゲート 1 の開閉状態に対応するように別個にストッパ部材 1 0 を設ける必要がなく、部品点数を削減して製造コストを低減することができる。

【 0 0 4 0 】

さらにまた、リヤゲート 1 にライセンスプレート L P を取り付けることができるので、車両の造形上の自由度が飛躍的に向上し、車両の商品性を向上することができる。

【 0 0 4 1 】

また、本実施形態のライセンスプレート保持ブラケット 2 によれば、各ストッパ 6 を弾性体としたことにより、プレート保持部材 4 及びライセンスプレート L P が、車両走行時にリヤゲート 1 又はリヤバンパ R B に対してばたつくことはなく、これによっても、ブラケット 2 の各部の信頼耐久性を向上することができるし、びびり音等を抑制することができる。

【 0 0 4 2 】

また、本実施形態のライセンスプレート保持ブラケット 2 によれば、各ストッパ部材 1 0 がゴム材であるので、リヤゲート 1 又はリヤバンパ R B における各ストッパ部材 1 0 との当接部分を的確に保護することができる。特に、リヤバンパ R B は車両の外部に露出して直接的に視認されるものであり、リヤバンパ R B の変形、損傷等は車両の見栄えに直結するものである。すなわち、このリヤバンパ R B の摩耗を的確に防止することにより、車両の見栄えを良好に維持することができる。

【 0 0 4 3 】

また、本実施形態の車両のライセンスプレート保持構造によれば、リヤゲート 1 に受容凹部 1 a を形成したことにより、リヤゲート 1 に近接させてライセンスプレート保持ブラケット 2 を設置することができ、リヤゲート 1 からブラケット 2 及びライセンスプレート L P が大きく突出することはなく、車両の見栄えを損なうことがなく、実用に際して極めて有利である。

【 0 0 4 4 】

また、本実施形態のライセンスプレート保持ブラケット 2 によれば、ストッパ部材 1 0 を略円筒状に形成したので、ストッパ部材 1 0 が伸縮変形することに加

え、折れ曲がり変形によってもリヤゲート 1 又はリヤバンパ R B とプレート保持部材 4 との相対移動が許容される。従って、プレート保持部材 4 のリヤゲート 1 又はリヤバンパ R B 側への移動量を大きく確保することができる。

【 0 0 4 5 】

尚、前記実施形態においては、ストッパ部材 1 0 が略円筒状のゴム材であるものを示したが、形状は略円筒状でなくとも、略半球状等であってもよいことは勿論である。また、材質はゴム材でなく、ウレタン樹脂等の他の弾性体であっても、プレート保持部材 4 及びライセンスプレート L P が、車両走行時にリヤゲート 1 又はリヤバンパ R B に対してばたつくことはないことは勿論である。

【 0 0 4 6 】

また、前記実施形態においては、回動機構 5 を、アーム部材 5 a と、ピン部材 5 b と、溝部 5 c とから構成したものを示したが、例えば、プレート保持部材 4 にピン部材を直接設け、このピン部材を挿通する孔をゲート側固定部材 3 に形成したものであってもよい。

【 0 0 4 7 】

また、前記実施形態においては、ゲート側固定部材 3 及びプレート保持部材 4 をそれぞれ板状に形成したものを示したが、これらは、例えば、棒状であってもよい。さらには、ストッパ部材 1 0 がリヤゲート 1 と当接するものを示したが、ゲート側固定部材 3 と当接するものであってもよいし、その他、具体的な細部構造等についても適宜に変更可能であることは勿論である。

【 0 0 4 8 】

【発明の効果】

以上詳述したように、本発明のライセンスプレート保持ブラケットによれば、リヤゲートが略垂直状態であっても、略水平状態であっても、ライセンスプレートを車両後方から視認することができる。すなわち、荷台を開状態のままでも、ライセンスプレートが後方より視認される状態であるので、支障なく車両を走行させることができ、実用に際して極めて有利である。

また、リヤゲートが略水平な状態で、且つ、リヤゲートに対してライセンスプレートが略起立した状態では、プレート保持部材のストッパ部材がリヤバンパと

当接することにより、プレート保持部材及びライセンスプレートがリヤバンパに的確に支持され、ライセンスプレートの振動等が抑制される。すなわち、リヤゲートが略水平状態のときに、ライセンスプレートの振動等を抑制することができ、ブラケットの各部の信頼耐久性を確保するとともに、びびり音等を抑制することができる。

さらに、リヤゲートにライセンスプレートを取り付けることができるので、車両の造形上の自由度が飛躍的に向上し、車両の商品性を向上することができる。

【 0 0 4 9 】

また、本発明の車両のライセンスプレート保持構造によれば、リヤゲートに近接させてライセンスプレート保持ブラケットを設置することができ、リヤゲートからブラケット及びライセンスプレートが大きく突出することはなく、車両の見栄えを損なうことがなく、実用に際して極めて有利である。

【図面の簡単な説明】

【図 1】

本発明の一実施形態を示すもので、リヤゲートが略垂直状態の車両の背面図である。

【図 2】

ゲート側固定部材とプレート保持部材とが略平行な状態のライセンスプレート保持ブラケットの背面図である。

【図 3】

ゲート側固定部材に対してプレート保持部材が略起立した状態のライセンスプレート保持ブラケットの正面図である。

【図 4】

ゲート側固定部材に対してプレート保持部材が略起立した状態のライセンスプレート保持ブラケットの側面図である。

【図 5】

リヤゲートが略垂直状態でライセンスプレートがリヤゲートに対して略起立した状態の車両の外観斜視図である。

【図 6】

リヤゲートが略水平状態でライセンスプレートがリヤゲートに対して略起立した状態の車両の外観斜視図である。

【図 7】

リヤゲートが略垂直状態でライセンスプレートがリヤゲートに対して略平行の状態の車両の一部側面説明図である。

【図 8】

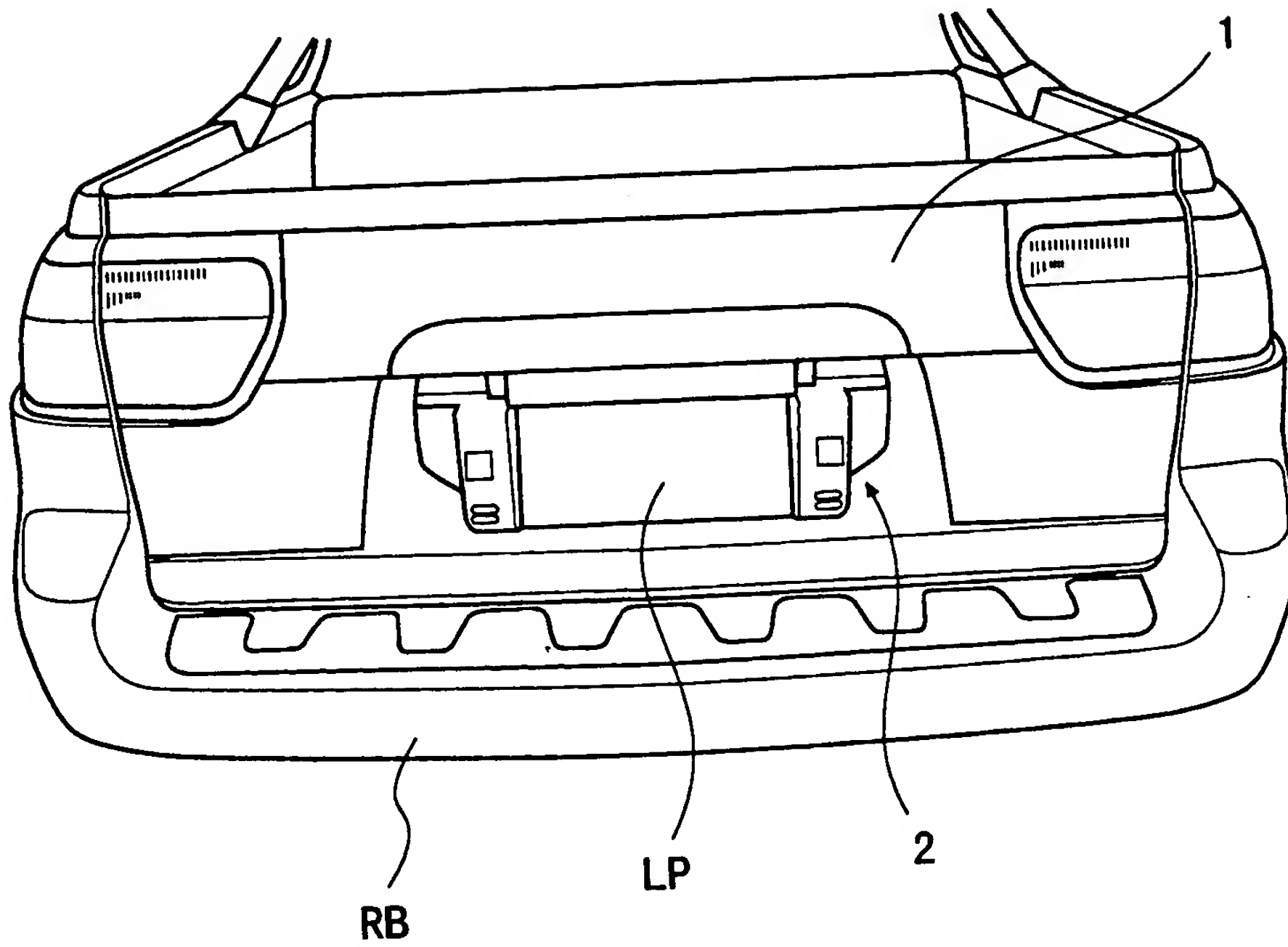
リヤゲートが略水平状態でライセンスプレートがリヤゲートに対して略起立した状態の車両の一部側面説明図である。

【符号の説明】

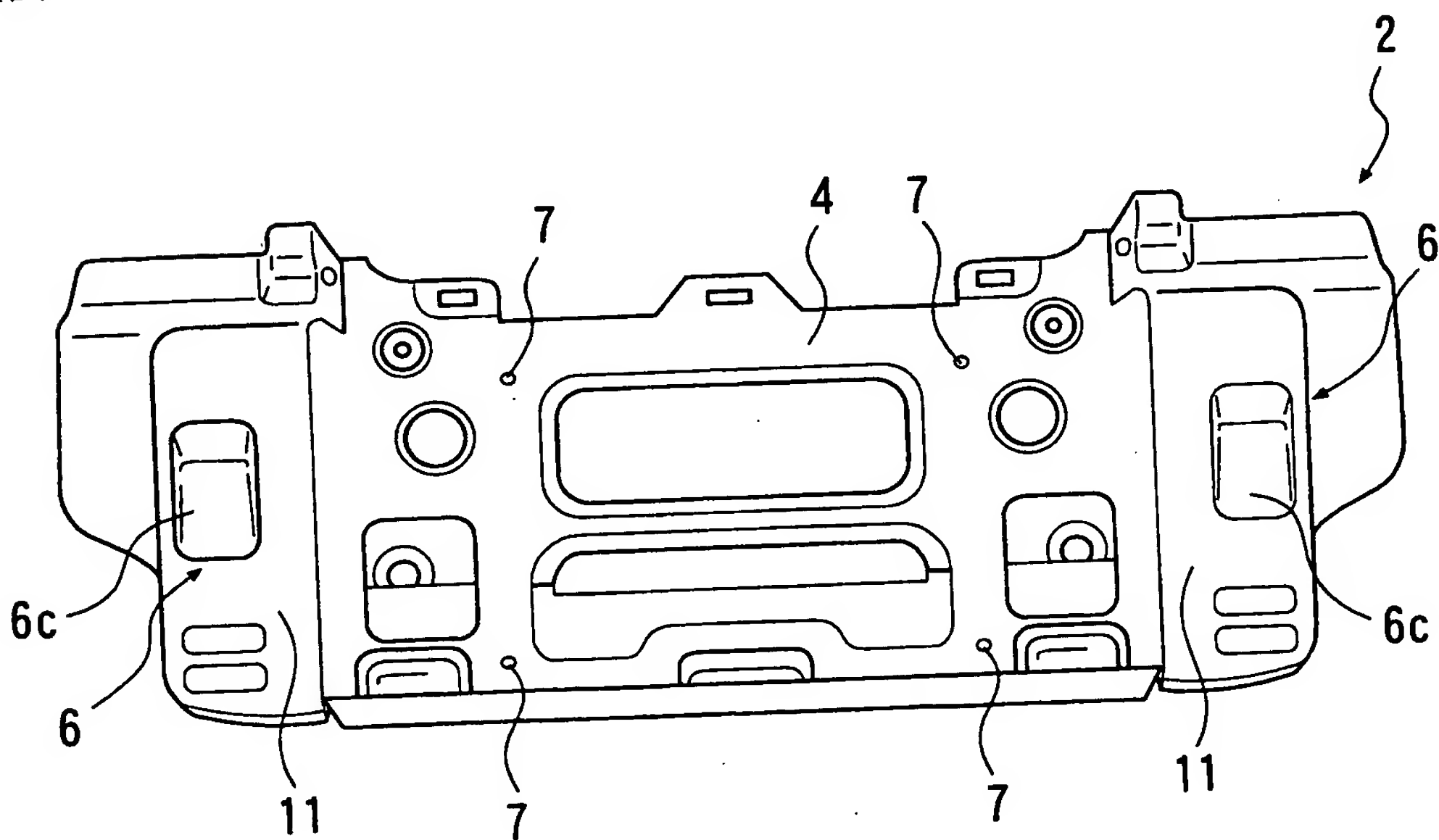
- | | |
|-----|------------------|
| 1 | リヤゲート |
| 1 a | 受容凹部 |
| 2 | ライセンスプレート保持ブラケット |
| 3 | ゲート側固定部材 |
| 4 | プレート保持部材 |
| 5 | 回動機構 |
| 6 | ロック機構 |
| 1 0 | ストッパ部材 |
| L P | ライセンスプレート |
| R B | リヤバンパ |

【書類名】 図面

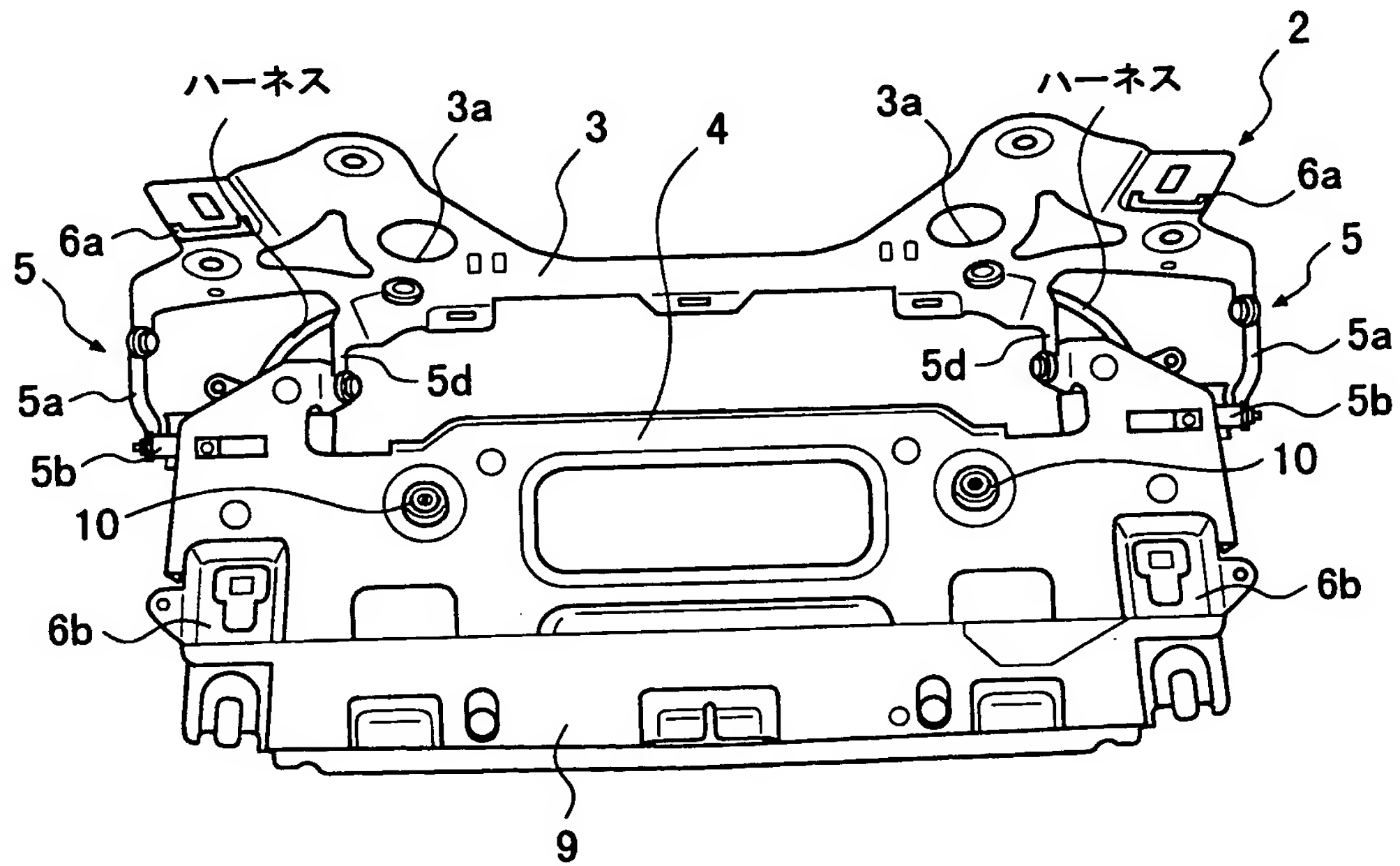
【図1】



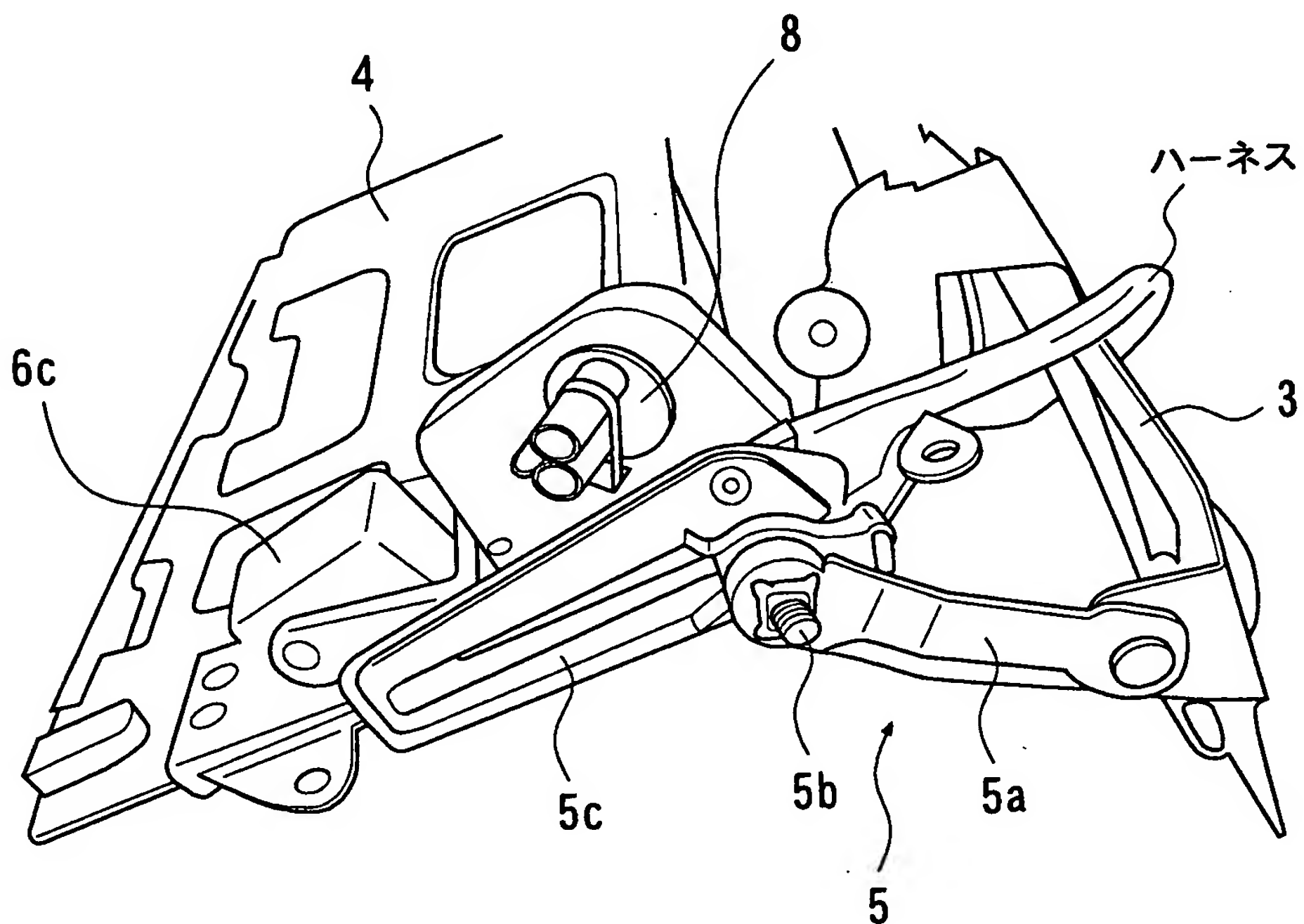
【図2】



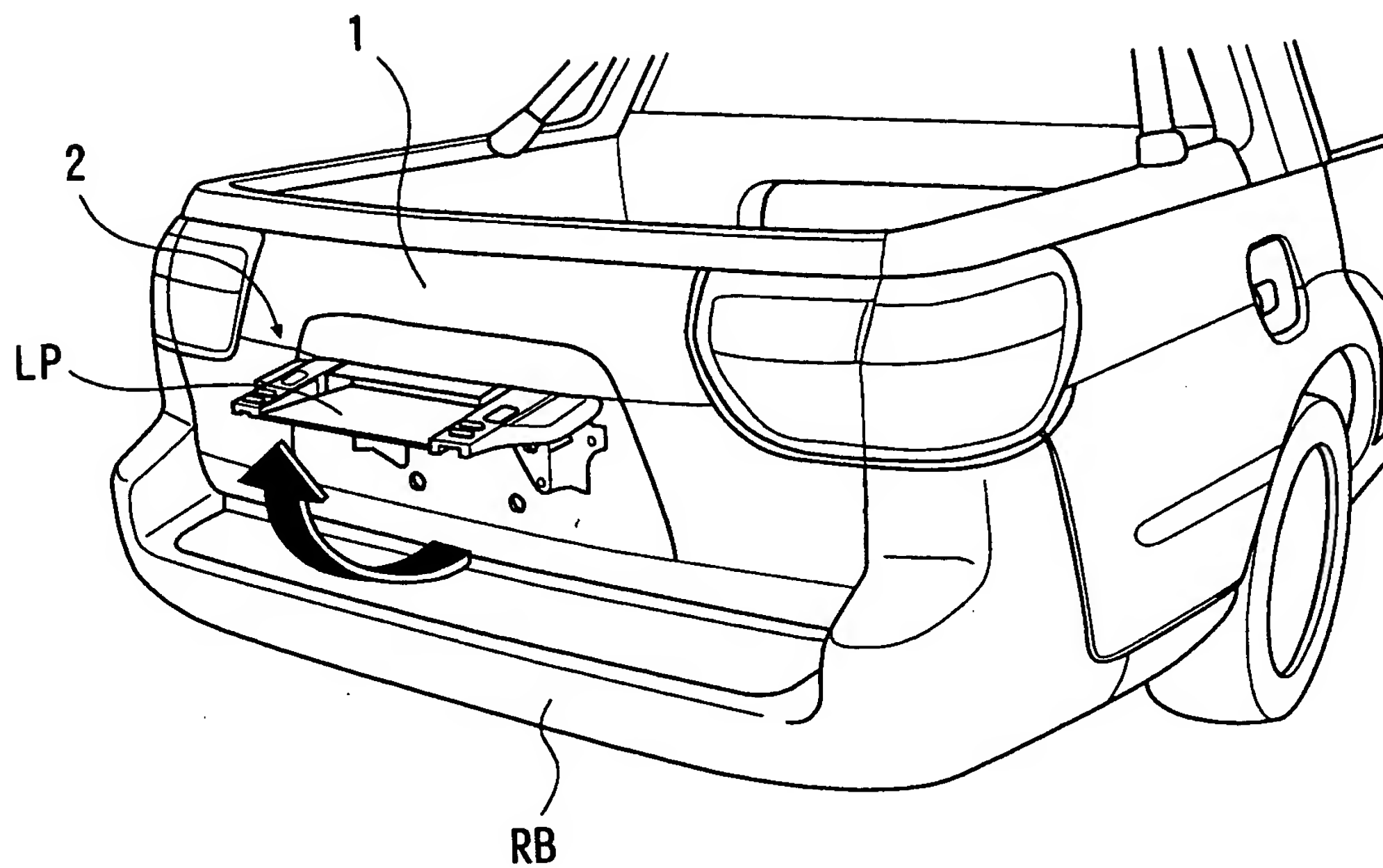
【図3】



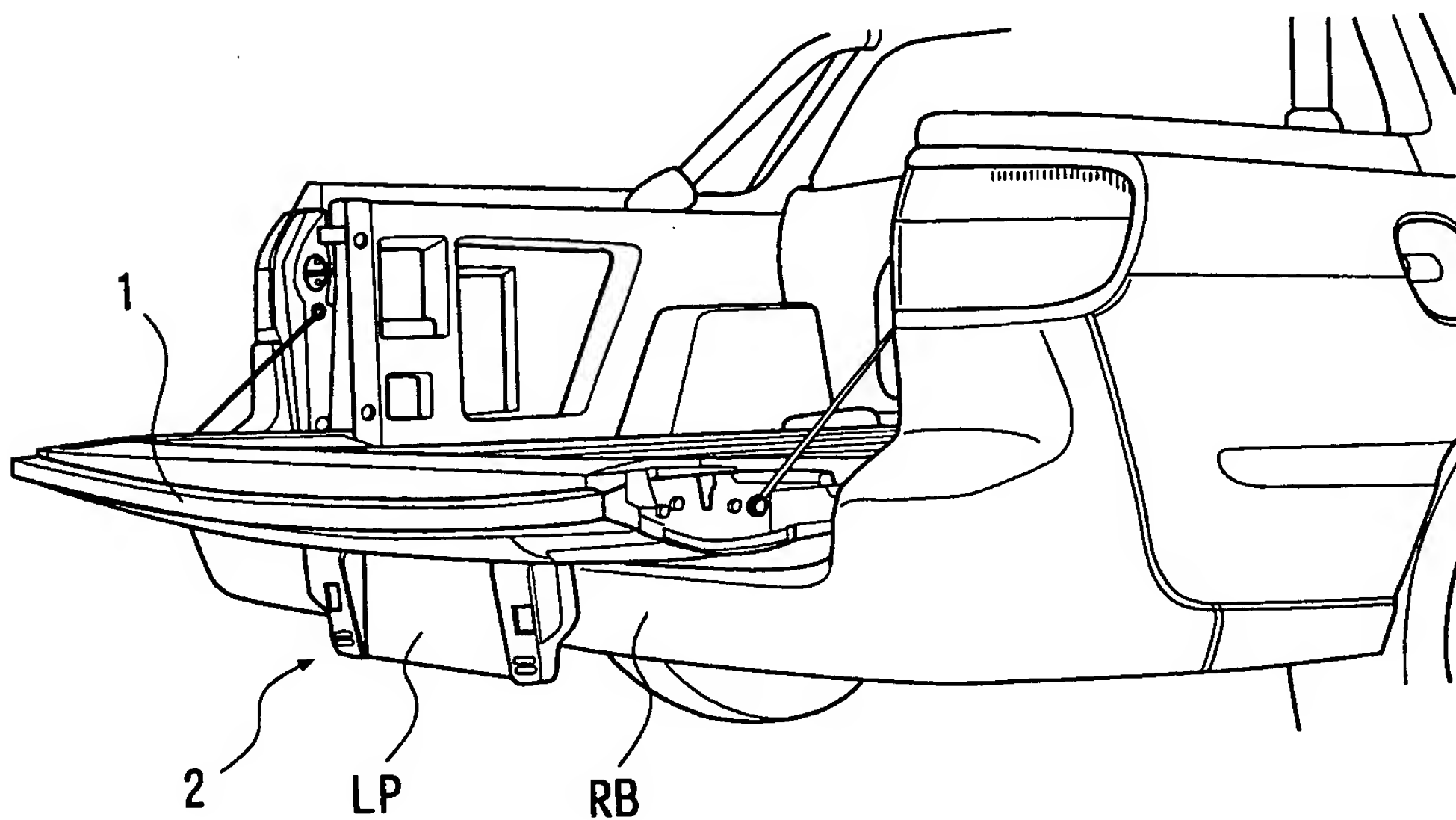
【図4】



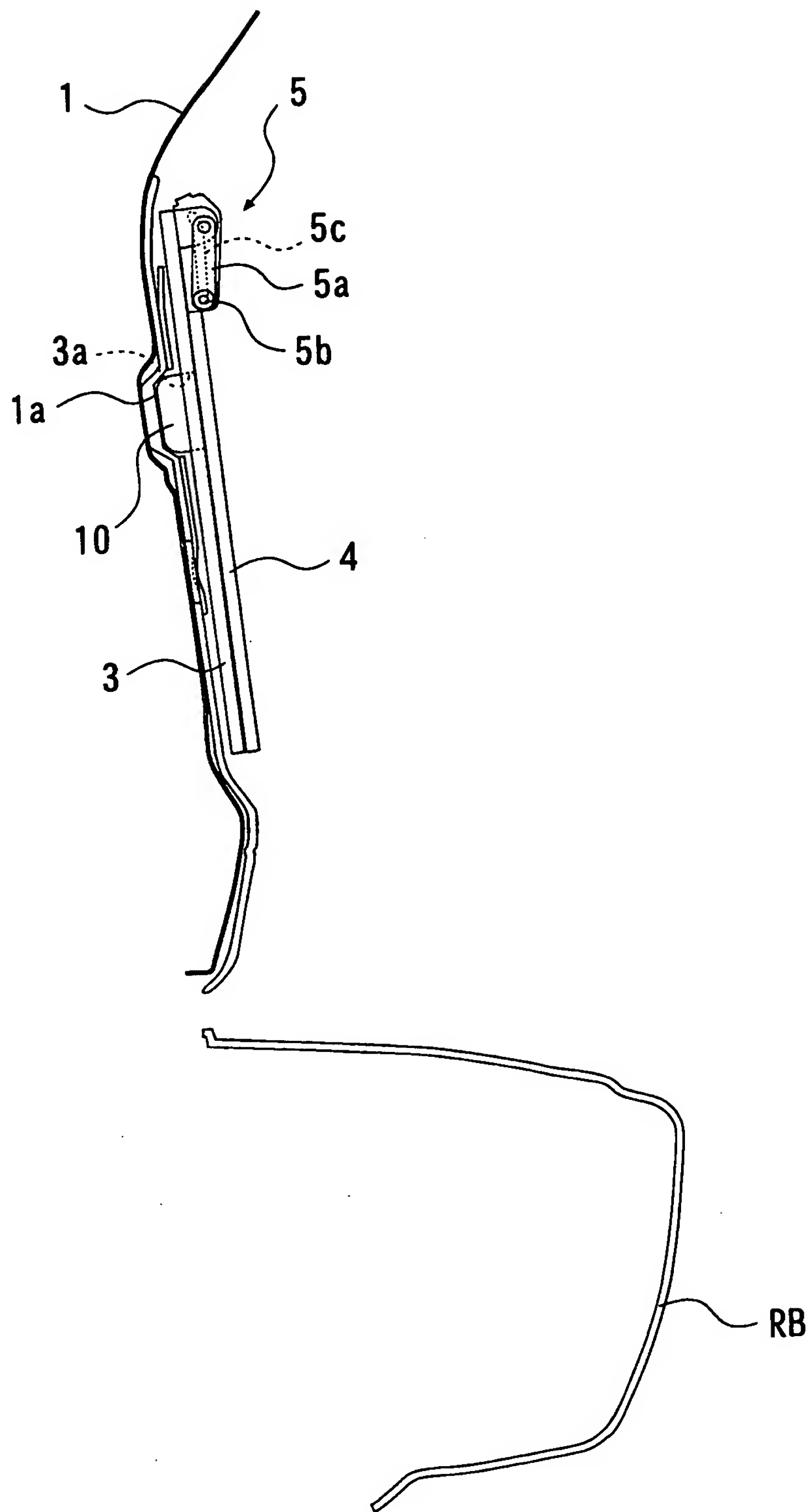
【図 5】



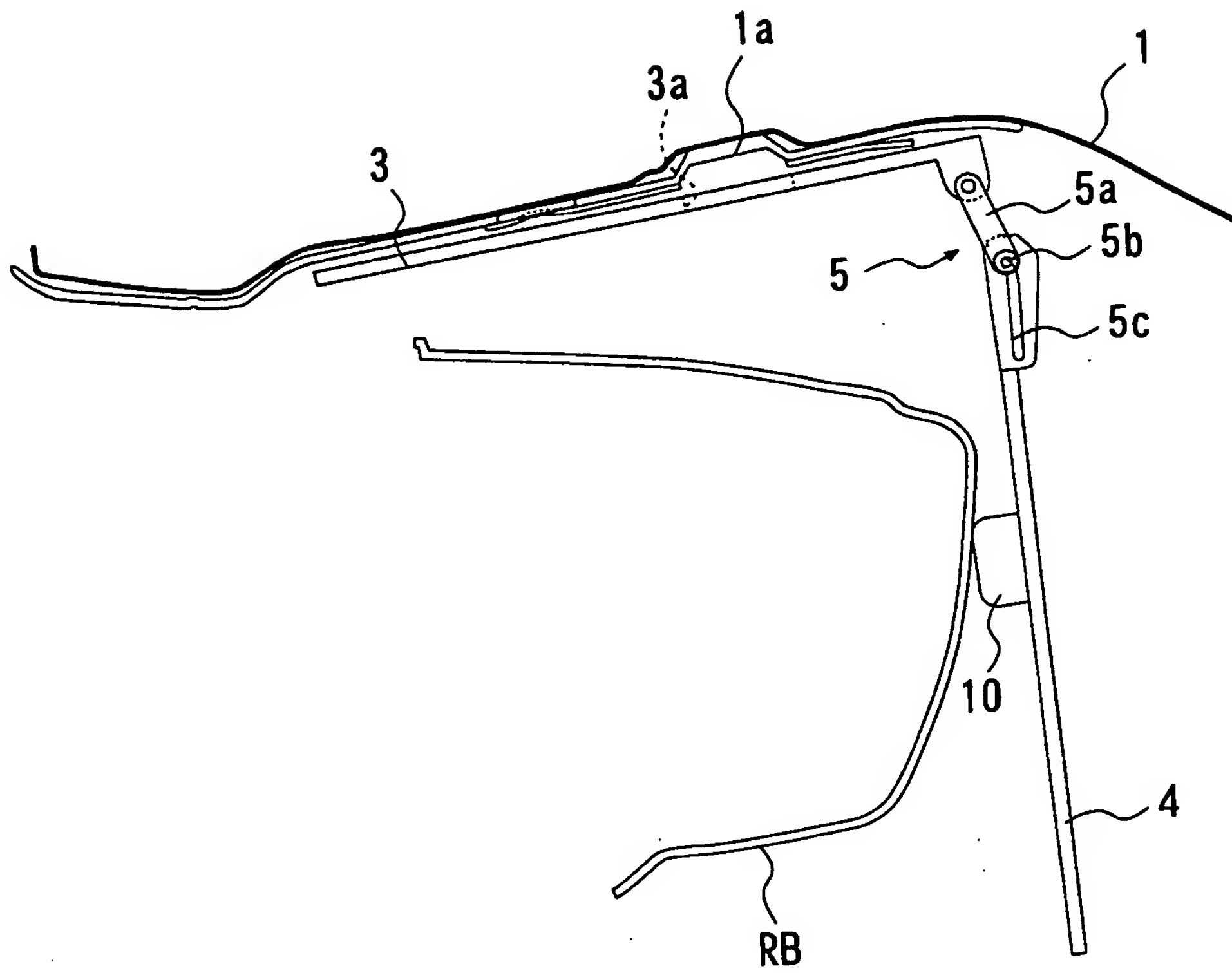
【図 6】



【図 7】



【図 8】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 ライセンスプレートをリヤゲートに取り付けた際に、リヤゲートが略垂直状態であっても、略水平状態であっても、ライセンスプレートを車両後方から視認することができようにし、且つ、ライセンスプレートを的確に支持する。

【解決手段】 リヤゲート 1 に固定されるゲート側固定部材と、ライセンスプレート L P を保持し、ゲート側固定部材に回動自在に接続され、リヤゲート 1 に対してライセンスプレート L P を略平行な状態と、略起立した状態と、に移動可能なプレート保持部材と、を備え、プレート保持部材に、略平行な状態でリヤゲート 1 と当接し、略起立した状態でリヤバンパ R B と当接するストッパ部材を設けた。

【選択図】 図 6

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [0 0 0 0 0 5 3 4 8]

1. 変更年月日	1 9 9 0 年 8 月 9 日
[変更理由]	新規登録
住 所	東京都新宿区西新宿一丁目 7 番 2 号
氏 名	富士重工業株式会社